

戦争体験者に創作劇

読谷高が
特設授業
証言者から聞き取りも



戦争体験者の証言を基に作った演劇「決意」を演じる読谷高の生徒たち。21日、嘉手納町のかでな文化センター

【読谷】慰霊の日を前に読谷高校(與那覇健勇校長)は21日、平和について考える「6・23平和特設授業」を嘉手納町のかでな文化センターで開いた。特設授業では、生徒たちが戦争体験者の証言を基に創作した演劇「決意」を披露し、戦争の悲惨さとともに本土復帰へ向け立ち上がる若者たちを熱演した。



特設授業は毎年実施しており、今年も「先祖の涙 繋ぎたい願い 未来へ語る平和の心」をテーマに、「決意」のほか、演劇「伝えたい思い」やダンス、合唱など244人が出演した。

演劇「決意」は、実行委員が戦争体験者の宮城巳知子さんと渡口彦信さんから証言を直接聞き取り、アレンジを加え台本を作った。防空壕で働く女学生が動けなくなった兵士を毒殺する場面や、女兒をひき殺して無罪になる米兵、本土復帰運動が起ころるまでの人々の

心の動きなど、笑いを交えながら演じた。「決意」で平和教育に取り組む教師役を演じ、特設授業の実行委員長も務めた3年の花城洗陽君は「最初は舞台に出たいという軽い気持ちだったが、証言収集などを通して平和を伝えなければいけないと感じた」と話した。

(2012年6月22日 28面)

☆創作劇では、戦争のどのような場面が演じられたのでしょうか？

☆学校では、平和に関してどのような特設授業が行われているか調べてみよう。

年 組 名前